

開催報告書

2022年度  
生物多様性  
ユース交流会  
サポーターフォーラム

2022年度  
生物多様性  
ユース交流会  
サポーターフォーラム



# 生物多様性ユース交流会・サポーターフォーラム

Youth Meetup & Supporters' Forum on Biodiversity in Aichi

## はじめに

本県では、2010年に開催されたCOP10を契機に、NPOや企業、大学、市町村等とともに各地域で生態系ネットワーク協議会を設立するなど、各地域の多様な主体との連携のもと、保全活動を推進してまいりました。これらの取組は世界の中でも注目され、2016年には、本県が中心となって、生物多様性の分野で先進的な世界の自治体と連携組織を立ち上げ、世界に向けて本県の取組を発信しているところです。

こうした中、昨年12月にカナダで開催されたCOP15では、生物多様性の損失を食い止めるため、2030年までに陸と海の30%を保全する「30by30目標」などを含む新たな世界目標が採択されました。目標達成のためには、各地域における保全活動の実践が重要であり、とりわけ法令に基づく保護地域以外においては、企業やNPO、そして、皆様一人ひとりの積極的な保全活動が大変重要となってまいります。

本県では、今年度から保全活動の裾野を広げるため、新たに「生物多様性サポーターズ」の登録者の皆様に、県内で各主体が取り組む保全活動の情報を共有いただきたく取組をスタートさせました。さらに、企業の皆様の取組意欲を高め、優良な取組が県内に波及することを目指して「あいち生物多様性企業認証制度」を開始しました。

こうした取組を通じて、本県はこれからも世界目標達成に貢献していきたいと考えており、その決意をCOP15において、私から発信したところです。「生物多様性ユース交流会・生物多様性サポーターフォーラム」は、生物多様性の主流化を加速させるとともに、多様な主体・世代の連携及びパートナーシップにより、経済・社会を支える基盤である生物多様性の保全を進め、持続可能な社会の構築につなげることを目的に、開催しました。今回の交流会やフォーラムをきっかけに、多様な主体、世代の協働による生物多様性保全活動が更に発展することを期待しています。



愛知県知事 大村 秀章

Hideaki Ohmura  
Governor, Aichi Prefecture

## 講演者から愛知県民へメッセージ



身近な自然や生き物たちの暮らしの多様性を考えることは、自分や身の回りの人を考えたり助けたりできるヒントや場合によっては答えもたくさん見つかります。ぜひ、多様性に触れることでそれ自体を学ぶことに加えて、その学んだ多様性を自分の将来や普段の生活にうまく活かすことも考えてみましょう。それにより自分の目の前に現れる苦労や大きな壁をうまく回避したり、越えたり、あるいは困っている人を助けたりして、自分を含め周りの人がみんな毎日楽しく暮らせるようになるということです。

竹島水族館館長 小林 龍二氏



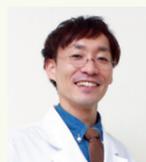
生物多様性条約COP15では、あらゆる社会の構成員が参加する(Whole Society Approach)ことが重要との原則が確認されました。生物多様性サポーターの皆さんには、個人として、企業やNGOなど団体の一員としての活躍が期待されます。自然を回復の道筋に乗せるという「ネイチャーポジティブ」は、気候変動と違って、成果が目に見えやすいものです。サポーターの皆さんのお気に入りの自然のある風景をこれからも見守っていただきたいと思います。

日本自然保護協会 道家 哲平氏



2022年12月に、新たな世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、世界が2030年までのネイチャーポジティブ実現に向けて動き出しました。国内では、それに対応した生物多様性国家戦略が策定されます。ネイチャーポジティブ実現のためには、社会全体の変革が必要であり、国民一人一人が行動変容につなげ、生物多様性に配慮した持続可能なライフスタイルに転換していくことが不可欠です。愛知県のサポーターズのみならず、周囲の人たちを巻き込んで取組を広げていただくことを期待しています。

環境省 自然環境計画課 生物多様性戦略推進室 室長 山本 麻衣氏



「生物多様性」をキーワードとして活動団体を検索すると、さまざまな活動団体があることを知ることができます。その各団体の相互連携によって、活動の活性化や、新しいアイデアが生まれます。生物多様性ユース交流会では「情報発信力の強化」「活動フィールドの拡大」「団体同士のつながりの強化」の3点において、各団体が抱えている問題を意見交換し、オール愛知の学生団体としての取り組み目標が提示されました。実現に向けてユースの皆さんの活動に期待しております。そして、私たち生物多様性サポーターも連携を加速させましょう。

ファシリテーター 西三河南部生態系ネットワーク協議会会長 人間環境大学 准教授 谷地 俊二氏

## 概要

生物多様性の保全活動の輪を広げ、生物多様性の主流化を加速させるため、生物多様性に関連する活動を行うユース団体が集まり、互いに取組共有・意見交換をする「ユース交流会」と、生物多様性サポーター登録者や、自然に関心のある方々を対象に「生物多様性サポーターフォーラム」を開催しました。



## Youth Meetup 生物多様性ユース交流会

愛知県内で自然環境の保全などにつながる活動を行っているユースの団体が、日頃の取組成果や課題を共有することで、ユース同士の交流を促進するとともに課題解決につなげる交流会を行いました。「ALL AICHI で Let's TRY」をテーマに掲げ、団体同士の交流を深めながら「オール愛知でやってみたいこと」を話し合いました。



## Supporters' Forum 生物多様性サポーターフォーラム



竹島水族館館長の小林 龍二氏による基調講演のほか、NPOや企業などによる取組発表など、経済・社会の基盤となる生物多様性について、多様な世代・主体が取組共有・意見交換を行いました。ユース交流会や、ブラジル・サンパウロ州のユースとの友好交流に関する成果等、次代を担うユース世代からの報告もあり、保全活動の輪の広がりを感じられるフォーラムとなりました。



# 生物多様性ユース交流会

2023年  
**3月5日** 日  
 10:00~12:30  
 in 名古屋サンスカイルーム

多様な大学・団体のユースが7団体 計27名が集まり、取組発表やディスカッションを行いました。ディスカッションでは、3グループに分かれ、人間環境大学 谷地俊二准教授によるファシリテーションのもと、各団体のリーダーが事前に決定した3つのテーマに沿って「オール愛知でやりたいこと」のアイデア検討・成果発表を行いました。



ファシリテーター 西三河南部  
 生態系ネットワーク協議会会長  
 人間環境大学 准教授 谷地俊二氏

各団体  
 リーダー

伊藤 柚稀	GAIA
澤田 隆宏	愛知教育学生団体SAGA
國枝 凜	環境クラブ 参画と資格
神 智美	愛知大学 森の子
河邊 陽之	名古屋商科大学 SDGsサークル
加々美 薫	命をつなぐPROJECT 学生実行委員会

## 活動フィールドを拡大するためのTRY!



ALL AICHIで  
 活動フィールドを拡大するための  
 『団体協力』

案1) リー方式でイベント開催!  
 各ユース団体の主催と協力をかえて月1回開催。  
 計画は主催団体が、人数は各団体から取る。  
 ホウレンア体験したり、外資種を自下り、観光したり。

案2) 環境以外の分野をまきこぶ!  
 料理系専門学校 × 外資種カンパニー  
 情報系 × 環境系団体 × ゲーム など

全く環境に興味がない人 → 興味あり



## 情報発信力を強化するためのTRY!

# 団体同士のつながりを強化するためのTRY!



## ユース交流会まとめ

### 情報発信力を強化するためのTRY!

- ・団体共同Youtubeアカウントを設ける
- ・歌などキャッチーなものと掛け合わせる
- ・マーケティングを取得するため  
専門家によるセミナーを受講する

### 活動フィールドを拡大するためのTRY!

- ・リレー方式でイベントを開催する
- ・環境以外(料理、情報等)の分野を巻き込む



### 団体同士のつながりを強化するためのTRY!

- ・他の団体と共同でイベントを企画・運営する

#### ユースからのコメント

各団体が似たような課題を抱えていることを知ることができた

他団体の活動に参加してみたいと思った

各団体の人達と交流を深めることができ、とても良い機会となった

各チームから出たアイデアを実現させてみたいと思った

学生自ら交流の場を企画したいと思った

勉強会を合同で開催したいと思った

参加した団体と合同でイベントを開催してみたい

今後の活動で生物多様性を色々な人へ広げていきたいと思った

団体同士の交流から新しいプロジェクトを始めることで互いの成長に繋がると感じた

今後やりたいことを言葉にして発表したことで実現に向けて気持ちが高まった

ぜひSNSをご覧ください!

GAIA



愛知教育学生団体 SAGA



環境クラブ 参画と資格



愛知大学 森の子



名古屋商科大学 SDGsサークル



命をつなぐPROJECT 学生実行委員会



# 生物多様性サポーターフォーラム

2023年  
**3月5日** 日  
 13:30~16:30  
 in 名古屋サンスカイルーム

竹島水族館館長の小林 龍二氏による基調講演のほか、NPOや企業などによる取組発表など、生物多様性について多様な世代・主体が取組共有・意見交換するフォーラムを開催し、152名(会場60名・オンライン92名)が参加しました。質疑応答などオンラインからも意見を積み、2050年の自然共生社会実現に向けた取組の方向性を共有しました。

## フォーラム当日の様子



①基調講演(竹島水族館館長 小林 龍二氏)



②基調講演(環境省自然環境計画課 山本 麻衣氏)



③基調講演(日本自然保護協会 道家 哲平氏)



④取組発表(株式会社加藤建設 久坂 耕氏)



⑤取組発表(コニックス株式会社 岡田 康氏)



⑥取組発表(ピオトップ・ネットワーク中部 長谷川 明子氏)



⑦ブラジル・サンパウロ州のユースとの交流成果発表



⑧生物多様性ユース交流会の成果発表

### 主催者挨拶

愛知県知事 大村 秀章



### 基調講演

- 1 「水族館から見える生物多様性」  
竹島水族館館長 小林 龍二氏
- 2 「新枠組を踏まえた国家戦略、成功のカギを握るサポーター!!」  
環境省 自然環境計画課 生物多様性戦略推進室 室長 山本 麻衣氏
- 3 「COP15で見られた多様な主体の活躍」  
日本自然保護協会 道家 哲平氏

### あいち生物多様性サポーターズの取組発表

1. 株式会社加藤建設 久坂 耕氏
2. コニックス株式会社 岡田 康氏
3. ピオトップ・ネットワーク中部 長谷川 明子氏

### ユースからの成果発表

生物多様性ユース交流会及び  
 愛知県とサンパウロ州のユース交流チームの成果発表

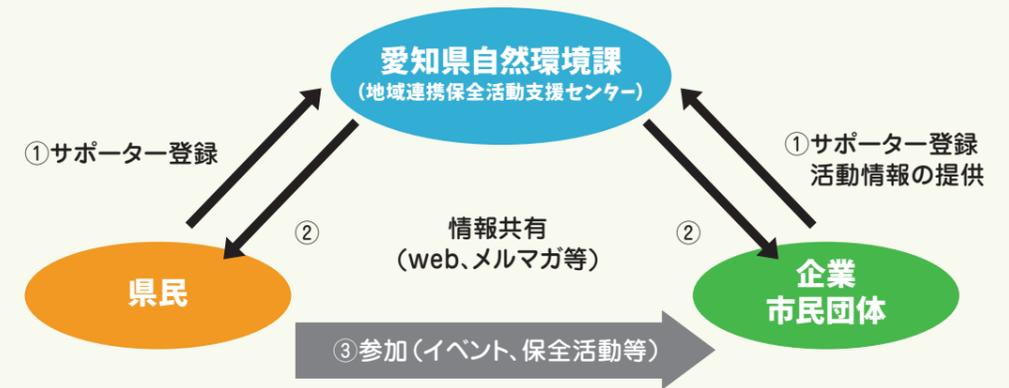


【参考】



サポーターの役割 それぞれのサポーターが、積極的に生物多様性保全に取り組みましょう。

- (1) あいちの自然や生きものに親しみ、学ぶ活動
  - ・NPOや企業などによる自然観察会や環境教育プログラムに参加
  - ・ハイキングや森林浴など自然に触れる余暇、エコツアーなどに参加
- (2) あいちの自然や生きものを守る活動
  - ・NPOや企業などによる森づくり活動、外来種駆除活動などに参加
  - ・自然や緑を守るための募金活動に協力
- (3) 日常生活や事業活動における生物多様性に配慮した行動
  - ・自然環境への負荷を考えた消費行動
  - ・自然の素晴らしさをSNSなどで情報発信



パネル展示



サポーター啓発グッズ

